



市民創世会
空 美英 議員

動物愛護について

問 野良猫の不妊手術費補助金が、前年度20万円から今年度15万円に減額された経緯は。また、補助金を使い切った場合の追加措置はどのようにするのか。

答 昨年度は20万円の予算額に対し、執行額が9万2,000円であった。この実績を基に、今後の制度周知による利用の伸びを勘案して今年度の予算を15万円としている。不足した場合は、補正予算で対応する。

問 現行の申請方法では、動物愛護というよりは苦情対策の一環としての補助金のように思える。市独自の施策を期待するが、市の思いは。

答 決して苦情対策ではなく、動物愛護や

命の大切さを理解した上で補助金制度を創設している。他自治体同様、制度周知や相談窓口、捕獲器の貸出し等のサポートを行っており、これに加えて、市としては、保護団体との意見交換を大切にしており、今後も現場の声を聞き、改善を行っていきたい。

意見 申請が複雑であり利用しにくいことや、保護しないと死んでしまう避妊適齢月齢前の子猫への対策についても検討してほしい。

その他の質問

- 多頭飼育崩壊について
- 防犯カメラ設置補助事業について



命を守るための補助



志清同友会
帰山 明朗 議員

日野川堤防漏水への早期対策実施を

問 昨年8月の大雨による日野川堤防からの漏水について、原因究明の結果はどうだったのか。また、早急な対応が必要だが、対応実施の現況はどうなっているのか。

答 漏水が9か所発生しており、県は速やかな堤防漏水の原因究明や対策工法の選定のため、堤防に損傷がないかなどの現地踏査を行うとともに、堤体および基礎地盤の土質ボーリング調査を実施し、浸透流解析、安全照査などを行った。その結果、8か所の堤防漏水箇所について、対策工事を実施する予定と聞いている。現在、漏水が著しい平井町、熊田町、下司町の3か所において、既に災害復旧工事として4月から対策

工事に着手している。その他の5か所については、既に調査設計に着手しており、準備が整ったところから地元で工事説明を行った後、順次、対策工事に着手する予定と聞いている。

また、残り1か所の住吉町については、堤防の擁壁ブロックからの漏水であり、平成25年から29年度に堤防強化のため整備したドレーン工施設の排水水抜きからの出水という形となっている。これは、堤体内の水位上昇を抑え、堤防の安全を高めるためのものであり、既設構造物が有効に機能したということであった。市としては、漏水対策が必要な箇所の早期完成に向け、県と協力しながら事業を進めていく。



公明党
奥村 義則 議員

在宅医療・介護連携推進について

問 年齢別人口割合の最も多い団塊の世代が全て75歳以上になる2025年以降、高齢者が安心して暮らすためには、在宅医療・介護連携推進への取組は喫緊の課題である。現在の在宅医療および訪問看護の実績等を踏まえ、2025年以降の課題に対しどう向き合っていくのか。

答 市の第8期の介護保険計画では、2025年には訪問看護が必要な高齢者は2021年度の約1.1倍に増加すると見込んでいる。

県では、訪問看護ステーションの大規模化の推進や人材確保等について積極的に働きかけを行っているが、本市の訪問看護ステーションは6か所で、他市町に比べ看護

職員が少ない状況である。また、在宅医療対応医療機関についても十分な体制とは言えず、今後ますます医師1人当たりの負担増加が予想される。さらに、2040年頃には高齢者人口がピークを迎えると言われており、個別ニーズに寄り添った医療・介護を受けることができる地域包括ケアシステムの構築を目指していく必要がある。

市では、医療と介護関係者間の連携強化を図るため、様々な協議の場を設け、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供体制を整えていきたい。このような取組を通し、人生最期を迎えるときまで、高齢者や家族が望む医療・介護が受けられる環境づくりを推進していく。